

「通知送り返した」

候補3人が抗議会見

裁判員時代

弁護士や学者らが呼びかけてできた団体「裁判員制度は
いらぬ！大運動」が20日、

東京都内で、制度への疑問などから裁判員になりたくない
と主張する裁判員候補者3人の
記者会見を開いた。いずれも
60代の男性で、実名を公表
して「人を裁きたくない」
「制度そのものを廃止して欲

しい」などと訴えた。

会見に参加したのは東京都
内の会社員(65)と千葉県内の
元教員(65)、ITコンサルタ
ント(63)。11月末に最高裁が
候補者に発送した通知を受け
取ったという。

会社員は「人は裁かないと
いう信条を持っており、裁判
所から呼ばれても裁判員にな
ることは拒否する」。元教
員は「通知はそのまま最高
裁に送り返した。残りの人
生はつつましく暮らしたいと

思っており、いまさら人を裁
いて嫌な気持ちを抱いてあの
世に行きたくない」と話し
た。

「大運動」事務局長の佐藤
和利弁護士は「私たちは制度
自体が違憲だと思っており、
あえて候補者が実名で会見す
ることで制度廃止を求める声
を表に出したいと考えた」と
説明した。

(中井大助)